

arcserve[®]
assured recovery™

新製品
Arcserve UDP v6.5
のご紹介

Arcserve Japan

Rev.5

> Arcserve UDP v6.5 の強化ポイント

クラウド対応

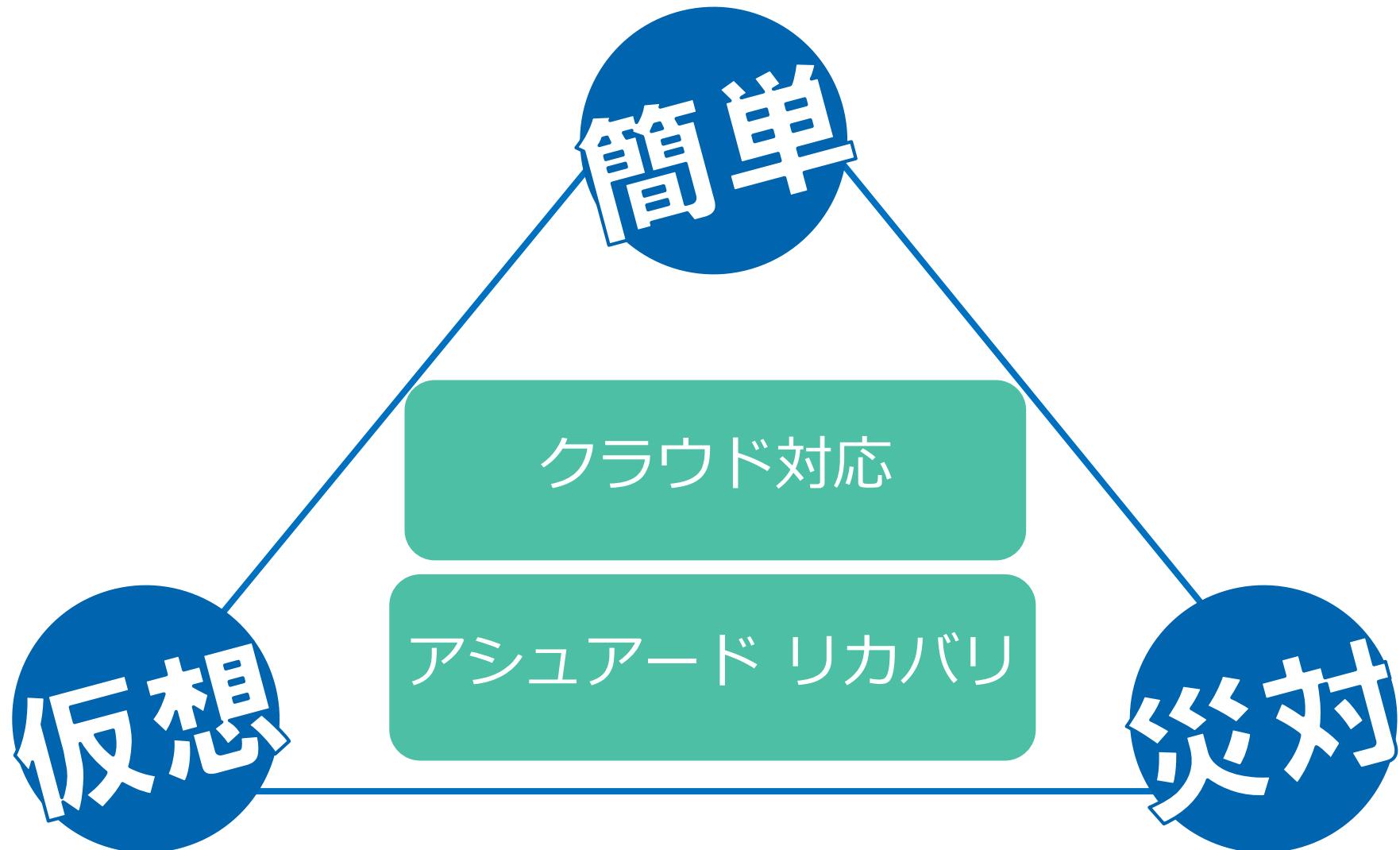


アシュアード リカバリ



※ この資料は2018年11月現在の最新版UDP v6.5 Update 4 の情報を元に作成しています。
各Update で追加された新機能や拡張機能については各Updateのリリースノートを参照ください。
<https://documentation.arcserve.com/Arcserve-UDP/Available/V6.5/JPN/Bookshelf.html>

> Arcserve UDP の全フォーカスエリアを強化



> 強化ポイントの概要

クラウド対応



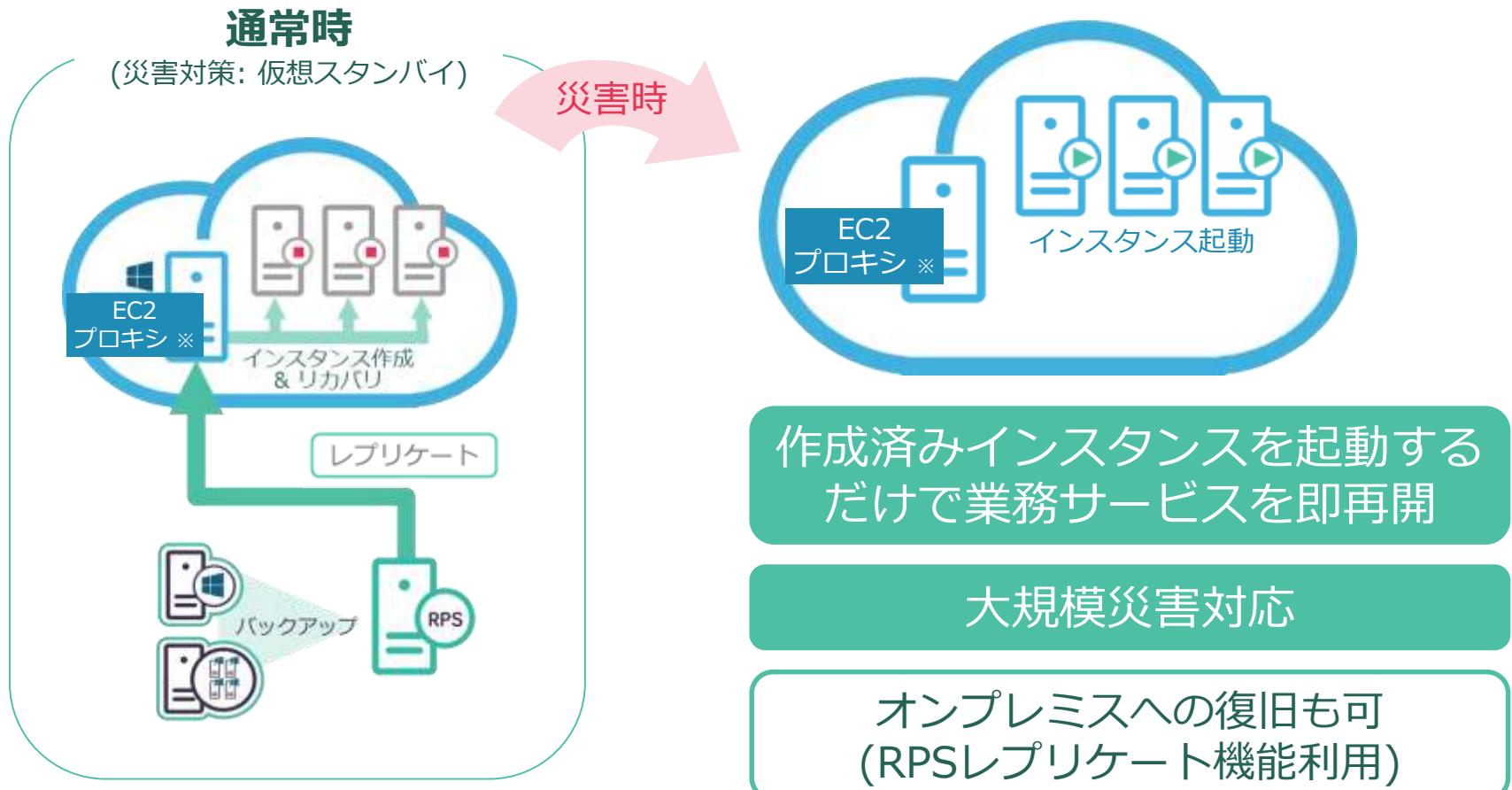
アシュアード リカバリ



Amazon EC2 および Microsoft Azure を利用した Windows 環境の事業継続



リストア時間 “ゼロ” でクラウドに即事業継続



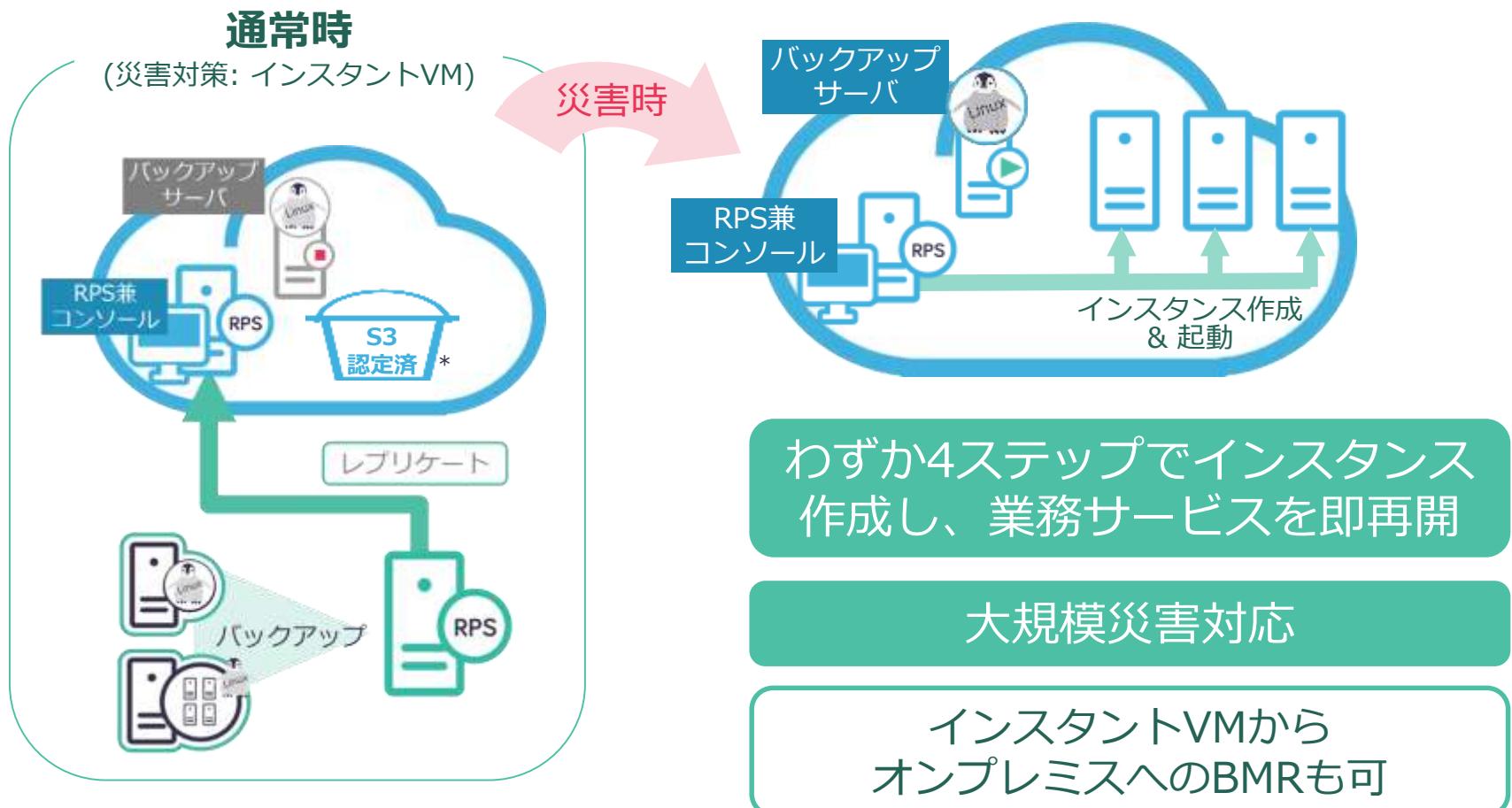
※ EC2 利用時にArcserve UDP エージェント導入
Azure 利用時は、RPSから直接インスタンス作成



Amazon EC2 および Microsoft Azure を利用した Linux 環境の事業継続



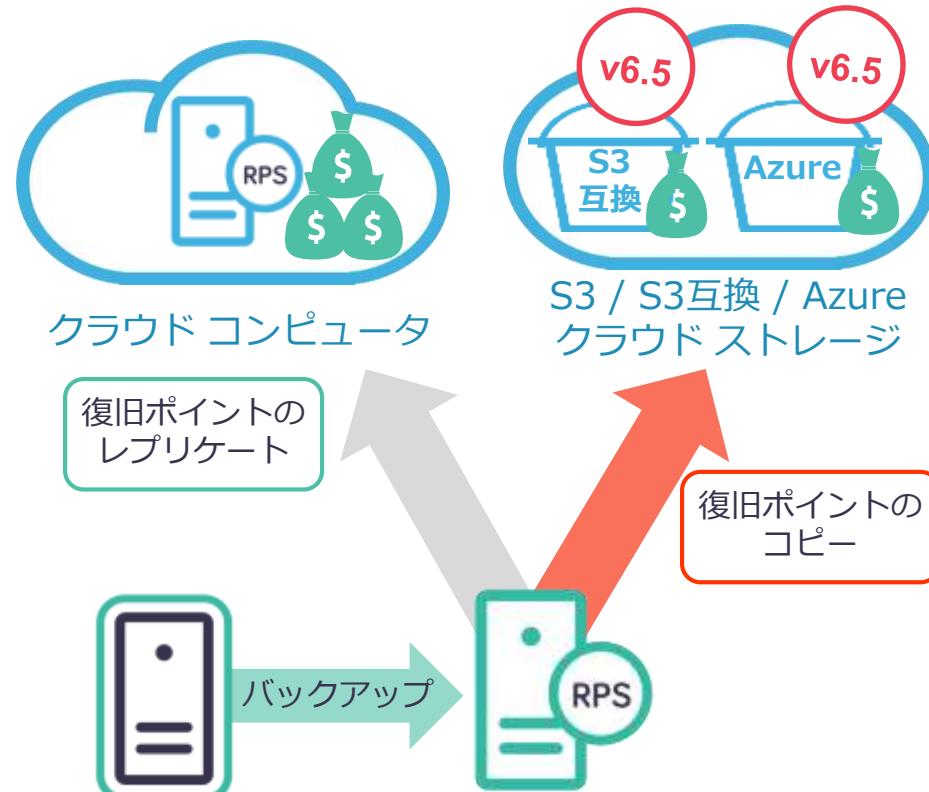
リストア時間 “ゼロ” でクラウドに即事業継続



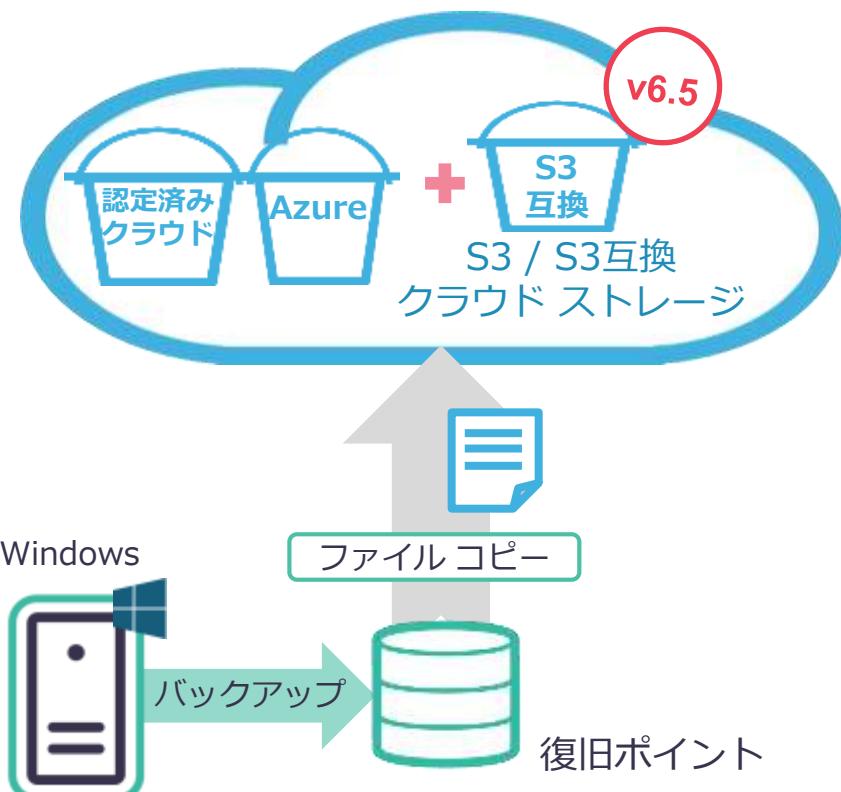
* インスタンストVMをS3にバックアップし、オンプレミスへBMR可

> クラウドストレージ利用の拡張

バックアップデータのクラウド保管



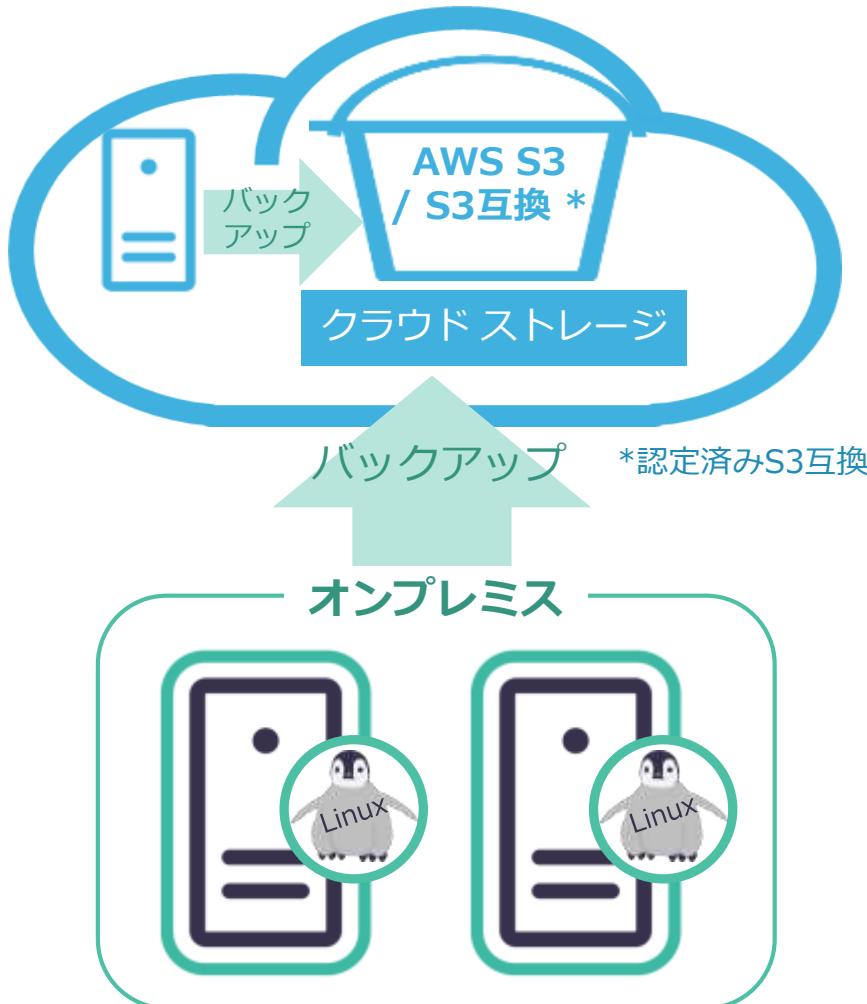
重要ファイルをクラウド保管



> Amazon S3 / S3 互換への直接バックアップ



手軽なクラウドストレージを利用して Linux 環境の災害対策を実現



オンプレミスの
ディスク削減

Windows サーバ(RPS)不要

オンプレミスへのBMRも可

※ クラウドストレージからのファイル単位リストア可

> Office 365 のデータを安全に保管

クラウドの制限に縛られずに Office 365 のデータが保管可能



Exchange Online のアイテム保持期間

- 完全削除アイテム保持期間 => 14日
- 削除済みメールボックス保持期間 => 30日

SharePoint Online のテナント容量

- 初期容量 1TB + 0.5GB × ユーザ数
- 削除済みアイテムの保持期間 => 93日

完全削除したアイテムを復元

継続増分 & 重複排除で
保管データを最小化

退職者のデータを復元
(他のアカウントへリストアなど)

Exchange Online /
SharePoint Online の
データをバックアップ

> 多種多様なクラウド利用をサポート

オンプレミス
の災害対策

オフサイト保管:

- 復旧ポイント(バックアップデータ)のコピー

- ファイル コピー

ダイレクト バックアップ:

- Linux サーバを S3 に直接バックアップおよびオンプレミスへの BMR

クラウドで
即事業継続

バックアップデータを
用いた事業継続:

- EC2 / Azure への仮想スタンバイ

- EC2 / Azure へのインスタントVM

IaaS/PaaS/SaaS
データの保護

IaaS/PaaS:

- EC2インスタンスからオンプレミスへのBMR

- EC2 / Azure のLinux インスタンスのバックアップおよびBMR

- クラウド コンピュータのバックアップ

SaaS:

- Office 365 バックアップ (Exchange / SharePoint)

※ “■”部分はUDP v6.5 の新機能および拡張機能

> 強化ポイントの概要

クラウド対応

アシュアード リカバリ



> アシュアード リカバリ

バックアップデータ(復旧ポイント)が
リストア可能な状態であることを自動確認



バックアップから確認処理の後始末までを全自動化

Windows/Linux/仮想の
バックアップとレプリケー
ト後のデータを確認

確認結果を
メールで通知

特定の曜日・時間を
指定して実行

> 復旧ポイントに対する確認方法

インスタントVMを利用して、システムの正常起動を確認

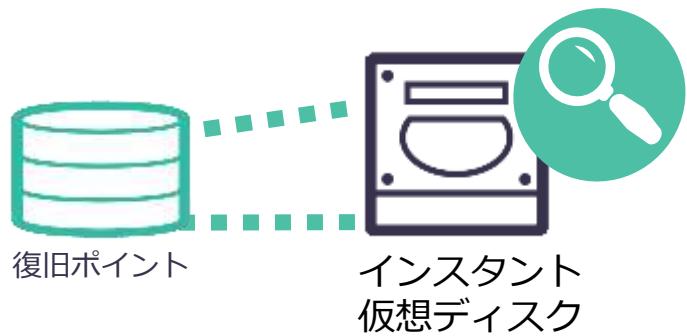


[確認のポイント]

- ・システムが起動可能か?
- ・サービス実行が可能か?
- ・アプリケーション サービスの整合性は取れているか? (カスタムスクリプトを利用)

仮想ディスクを参照して、データの状態を確認 *

* バックアップ対象がWindows OSのみ



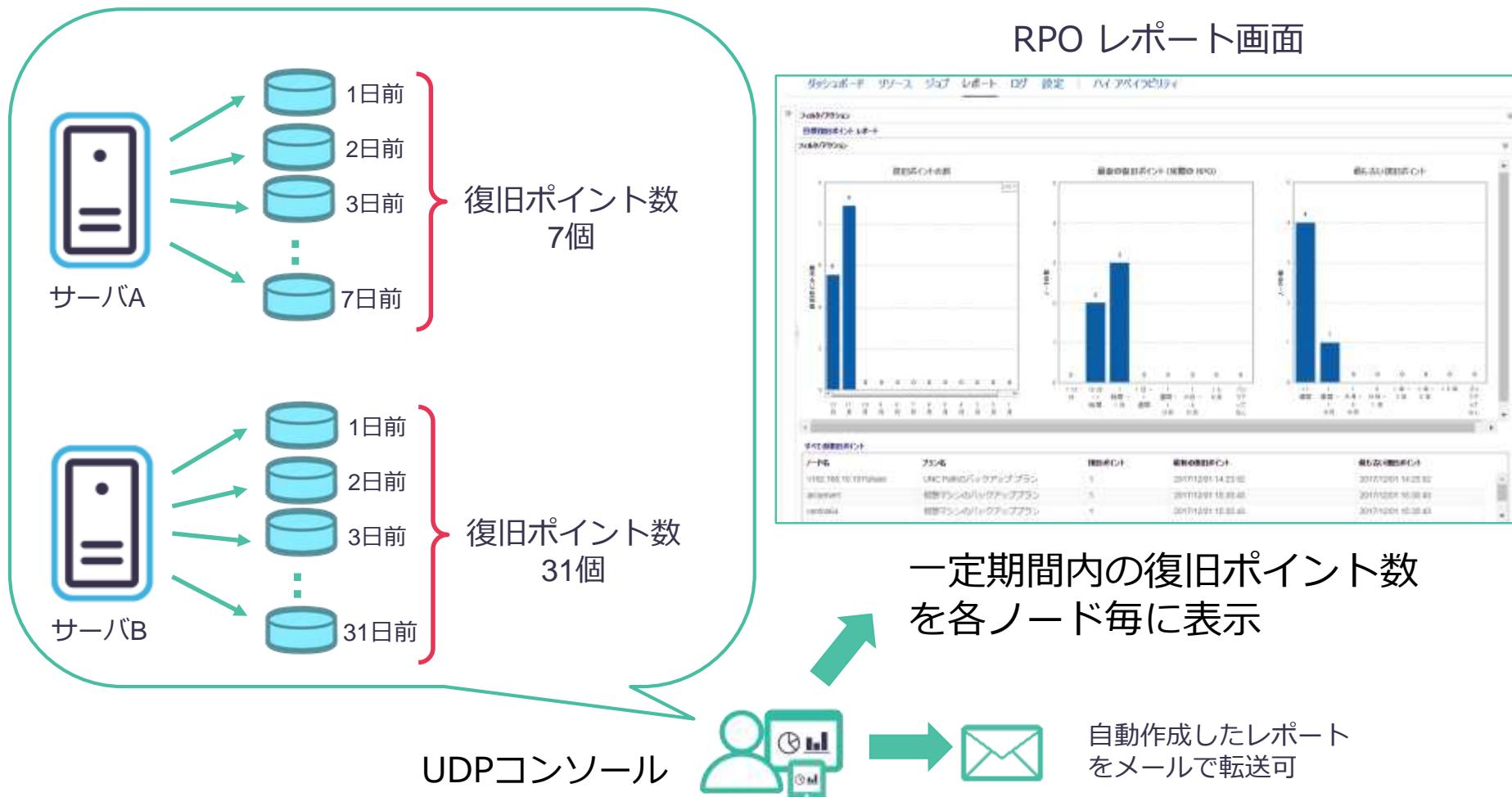
[確認のポイント]

- ・ファイルシステムの整合性が取れているか?
- ・ディスクに破損はないか?
 - ✓ chkdsk による確認も可能
- ・特定ファイルの読み出しが可能か? (カスタムスクリプトを利用)

確認用ディスク スペース不要、短時間で自動確認！！

> RPO の可視化 (SLA レポート)

サーバ毎にどの時点まで戻せるかを可視化



> <サンプル> RPO レポート

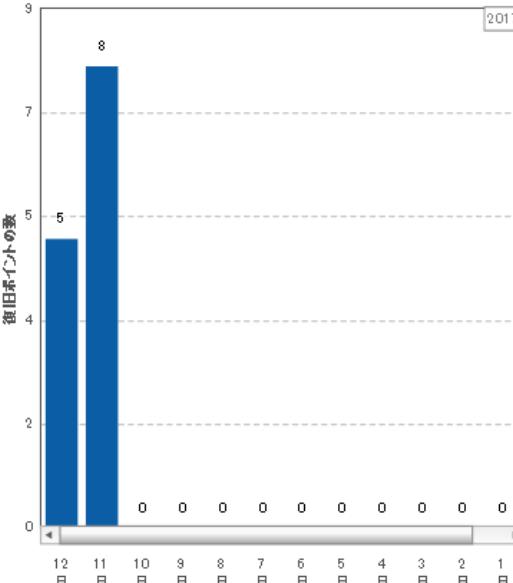
ダッシュボード リソース ジョブ レポート ログ 設定 | ハイアビラビリティ

フィルタ/アクション

目標復旧ポイントレポート

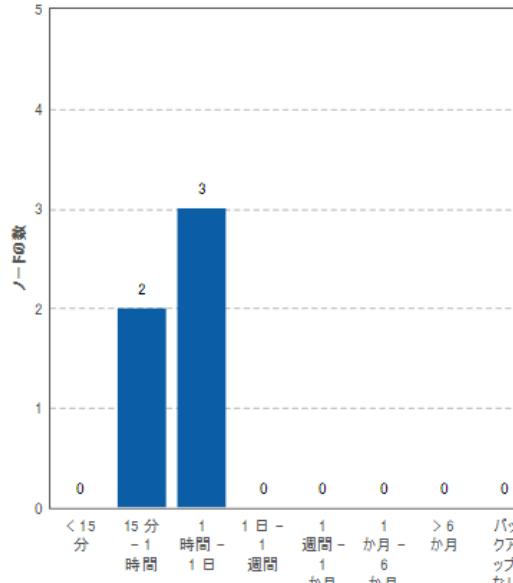
フィルタ/アクション

復旧ポイントの数



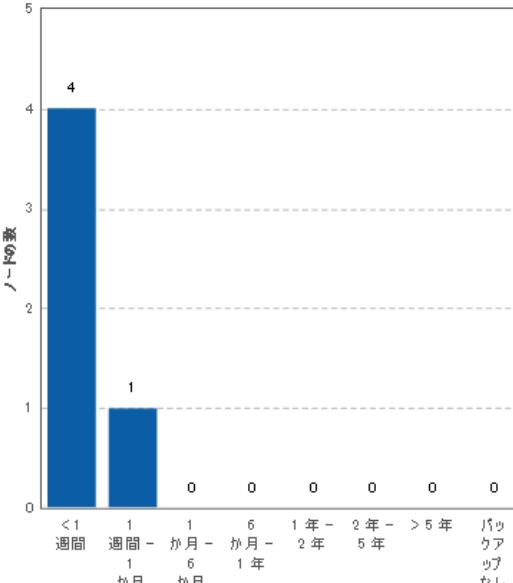
月	復旧ポイントの数
1月	0
2月	0
3月	0
4月	0
5月	0
6月	0
7月	0
8月	0
9月	0
10月	0
11月	5
12月	8

最新の復旧ポイント (実際の RPO)



時間	ノードの数
< 15 分	0
15 分 - 1 時間	2
1 時間 - 1 日	3
1 日 - 1 週間	0
1 週間 - 1 ヶ月	0
1 ヶ月 - 6 ヶ月	0
> 6 ヶ月	0
バックアップなし	0

最も古い復旧ポイント



時間	ノードの数
< 1 週間	4
1 週間 - 1 ヶ月	1
1 ヶ月 - 6 ヶ月	0
> 6 ヶ月	0
1 年 - 2 年	0
2 年 - 5 年	0
> 5 年	0
バックアップなし	0

すべての復旧ポイント

ノード名	プラン名	復旧ポイント	最新の復旧ポイント	最も古い復旧ポイント
\192.168.10.157\share	UNC Pathのバックアップ プラン	1	2017/12/01 14:23:52	2017/12/01 14:23:52
arcserve1	仮想マシンのバックアッププラン	1	2017/12/01 15:35:43	2017/12/01 15:35:43
centos64	仮想マシンのバックアッププラン	1	2017/12/01 15:35:43	2017/12/01 15:35:43

> RTO の可視化 (SLA レポート)

設定した目標復旧時間内に復旧できるかを可視化

測定対象

アシュアードリカバリ



BMR



インスタントVM



ファイルリストア



VM復旧



UDPコンソール



RTO レポート画面



実際の復旧時間と、目標の復旧時間を比較した結果を色分け表示

自動作成したレポート
をメールで転送可

> <サンプル> RTO レポート

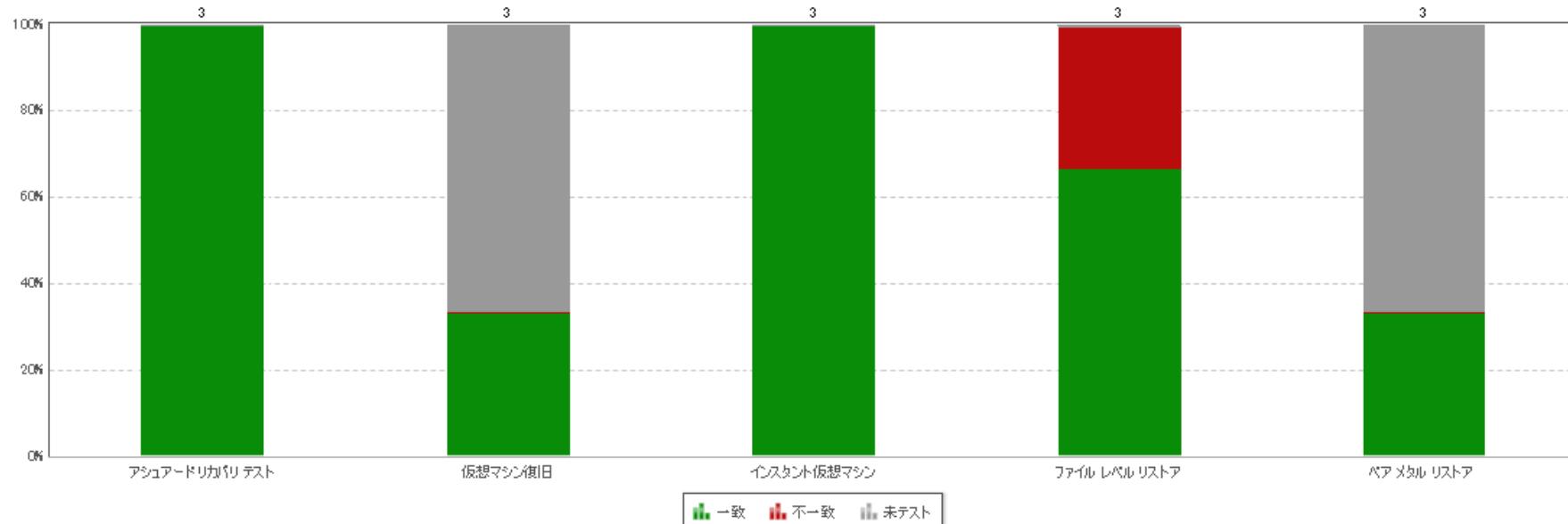
レポート ログ 設定 | ハイアベイラビリティ

フィルタ/アクション

目標復旧時間レポート

フィルタ/アクション

5 (60%) 個中 3 個のノードに、SLA プロファイルが割り当てられています。



一致 不一致 未テスト

ノード名	SLA プロファイル名	RTO 遵守				
		アシアードリカリ テスト	仮想マシン復旧	インスタント仮想マシン	ファイル レベルリストア	バーメタルリストア
W192.168.10.157\share	業務サーバ\SLA	未テスト	未テスト	未テスト	一致 (実際: 1分)	未テスト
arcserve1	業務サーバ\SLA	未テスト	一致 (実際: 11分)	一致 (実際: 3分)	一致 (実際: 1分)	未テスト
w2k6udp65a	業務サーバ\SLA	一致 (実際: 1分)	未テスト	一致 (実際: 7分)	一致 (実際: 1分)	一致 (実際: 69分)

UDP v6.5 その他の進化

> Windows Server 2016 サポート

物理/仮想環境を保護



Windows 2016
物理サーバ



Windows 2016
Hyper-V
(仮想マシン / ホスト)

アプリケーションのオンライン バックアップも対応

SQL Server 2016
Exchange 2016
Active Directory



UDP全コンポーネントでサポート



エージェント



コンソール



復旧ポイント
サーバ

災害対策も可能

レプリケート、仮想スタンバイ、
インスタントVM にも対応



> 新規追加されたVMを漏れなくバックアップ



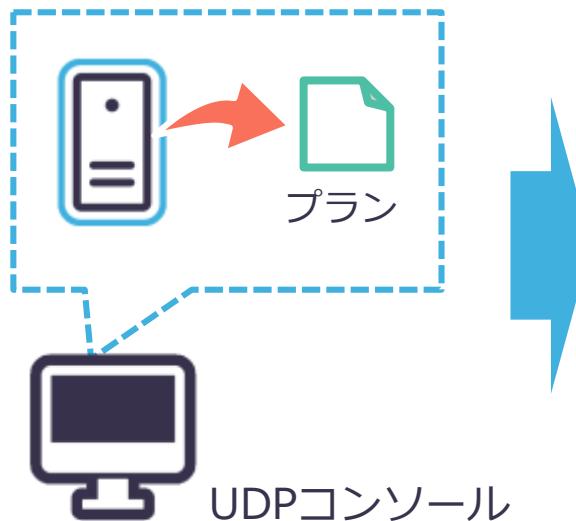
VMware および Hyper-V 環境の VM自動検出および自動バックアップ

① スケジュールで
仮想マシンや
テンプレートを検出



VMware / Hyper-V 環境

② プランに仮想マシン
を自動割り当て



UDPコンソール

③ スケジュールに
沿ってバックアップ



エージェントレス
バックアップ

バックアップ設定の自動化で管理工数を削減

> 仮想環境への対応拡張



VMware vSphere 6.5 / 6.7 サポート

VMware
vSphere 6.5 / 6.7



暗号化された
ゲストOSの保護など、
最新VMware環境に対応

Hyper-V Linux VM へのエージェント 導入をサポート



Linux ゲスト
Hyper-V ホスト
Linux ゲストOS内の特定
ボリュームを除外した
バックアップが可能

エージェントレスでも 元の場所へ 直接リストアが可能

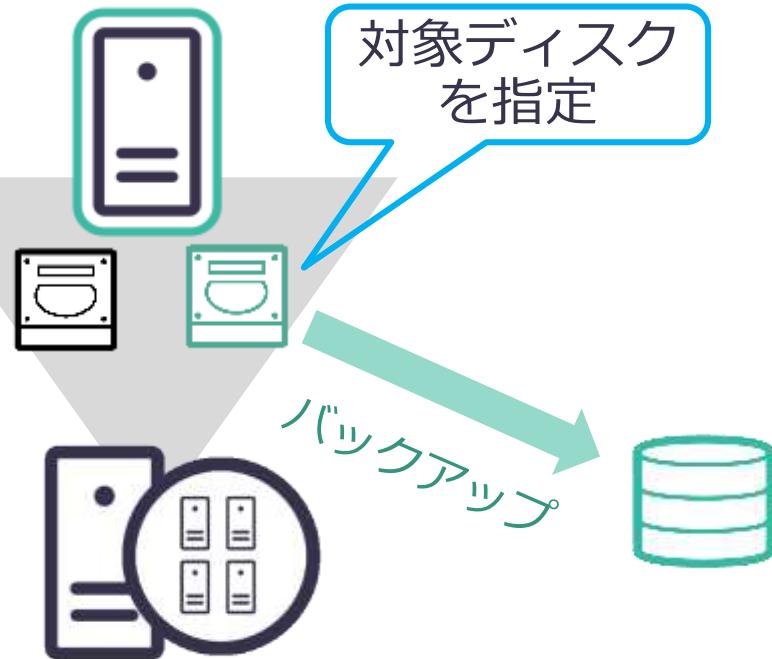


エージェントレス
バックアップからの
リストア手順を簡略化

> 仮想マシンをディスク指定でバックアップ



仮想ディスクを限定したエージェントレスバックアップが可能



VMware / Hyper-V 環境

バックアップ時間短縮と、バックアップデータ量を削減

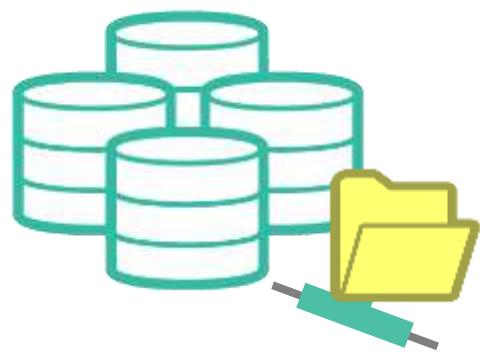


> 共有フォルダ (CIFS/NFS) のバックアップ



エージェントが導入できない NAS やストレージ上のデータを
バックアップ

NASデバイス
/ストレージデバイス



プロキシ
(UDP Agent)

共有フォルダ単位で
バックアップ

継続増分&重複排除で
バックアップを最小化

アクセス制御リスト
の復旧も可能

※ バックアップ先はRPSのみ利用可

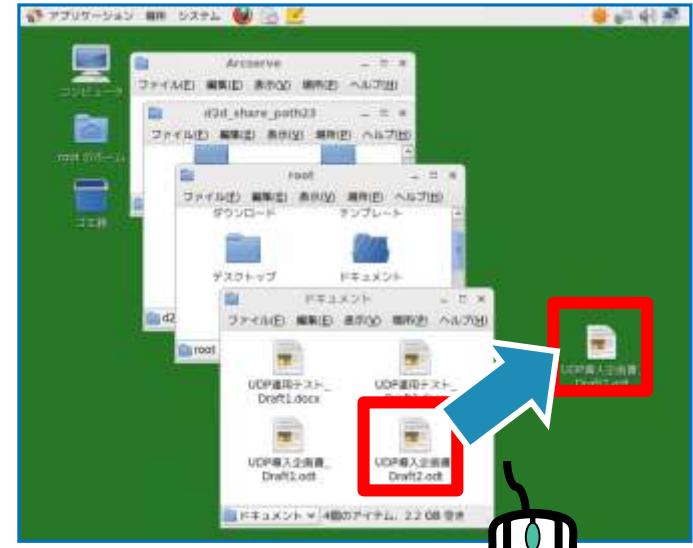
> Linux 環境の簡単ファイルリストア

簡単

復旧ポイントをマウントして、ファイル単位でリストア



『NFS経由のリストア画面』



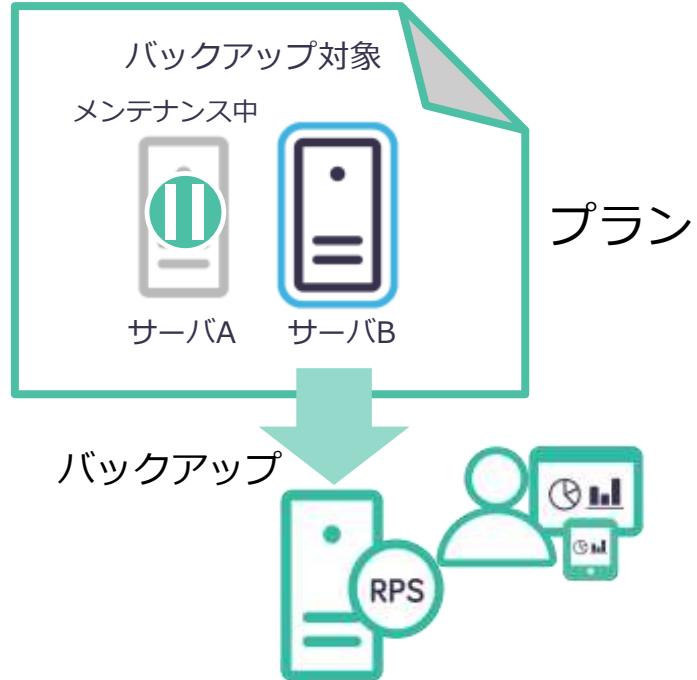
マウス操作だけ
(ドラッグ&ドロップ)
で簡単リストア

Linux も Windows も、
誰でも簡単なファイルリストアを実現

> バックアップの運用性および操作性の向上

簡単

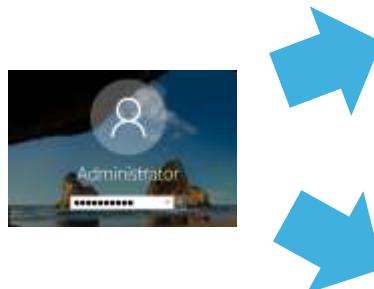
任意サーバのバックアップを一時停止



プランを変更しないでも、特定サーバの
バックアップ実行をスキップ

UDP GUIへのシングル サインオン

- ① Windowsにログイン
- ② ログイン操作無しにGUIを起動



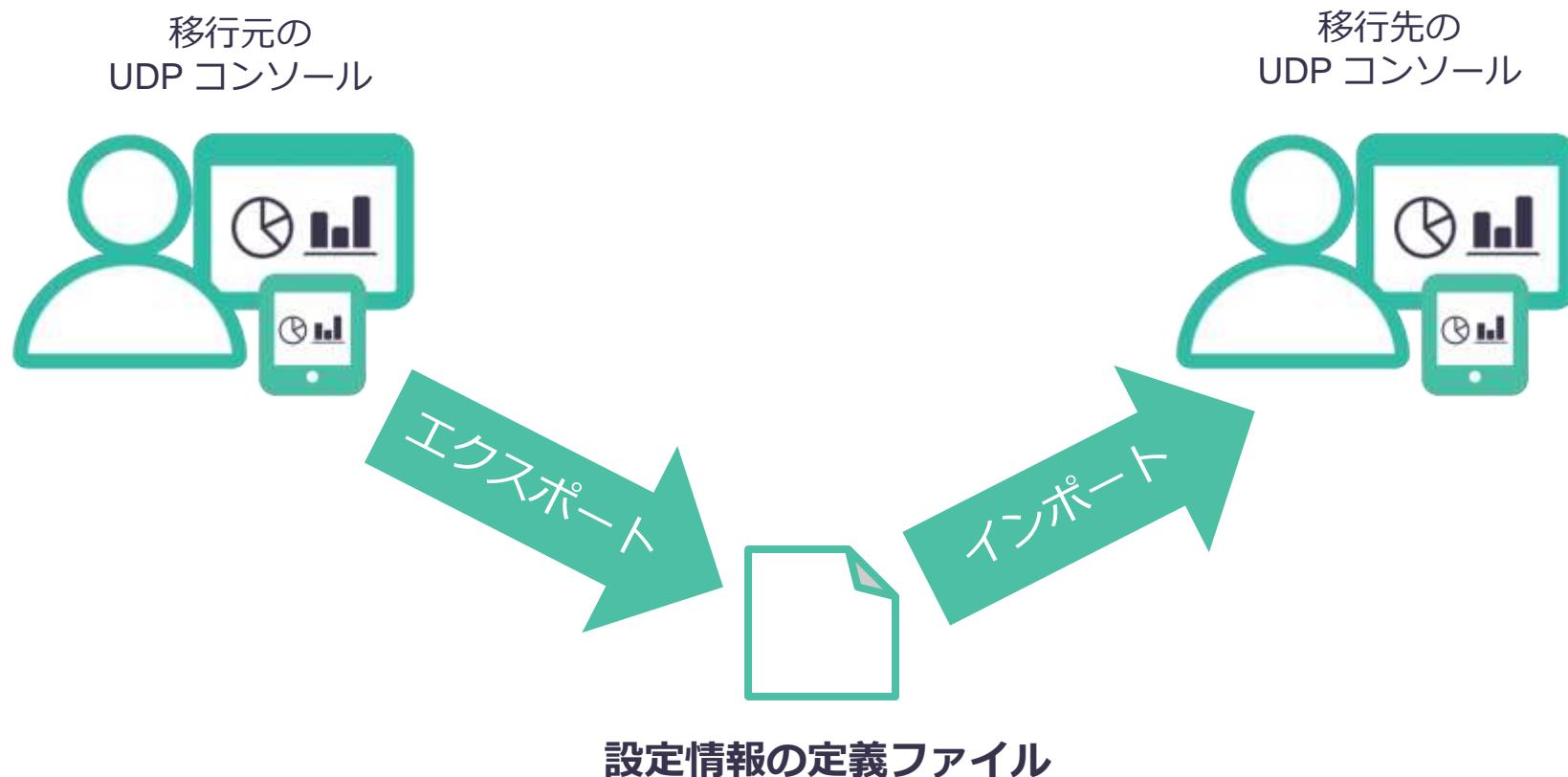
Windows エージェント

Windows 認証と統合し、UDP コンソールまたはエージェントにシングル サインオンを実現

> UDP コンソール情報の移行



プランやノード、アクティビティログを別マシンの UDP コンソールに移行可能



> コストを抑えた復旧ポイントの2重化



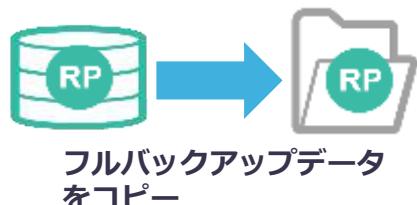
RPS 1台で復旧ポイントのレプリケートを実現

v6以前のレプリケート



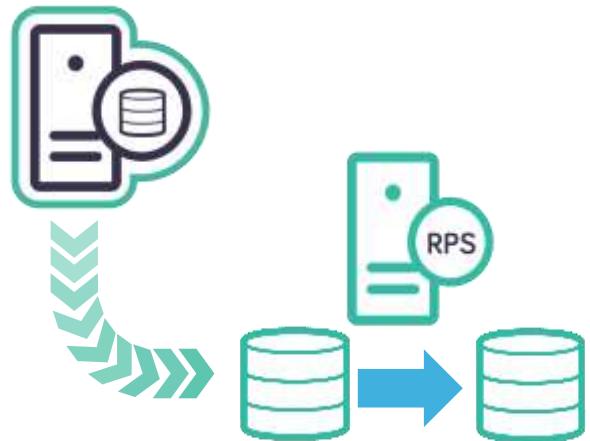
- RPSが2台必要
 - ✓サーバHW
 - ✓OSライセンス x2

復旧ポイントのコピー



- コピー先ディスクの容量に注意が必要
- コピーデータのカスケードやテープコピーが不可

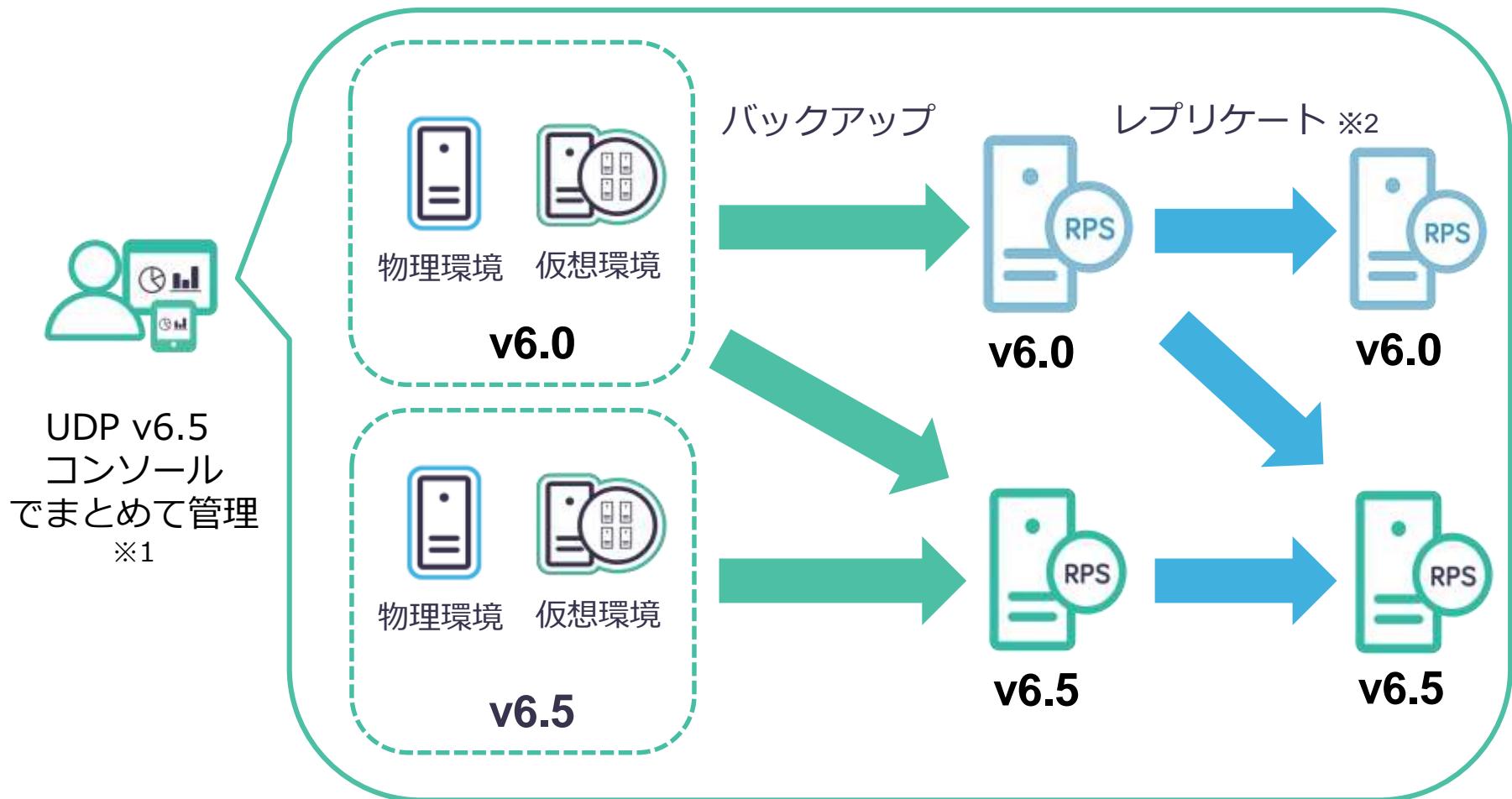
ローカル レプリケート



- 削減可能なものの
 - ✓OSライセンス(1ライセンス)
 - ✓サーバHW
 - ✓ディスク(重複排除利用可)

> 前バージョンとの混在環境サポート

既存のバックアップを継続しつつアップグレードが可能



※1 v6.0とv6.5が混在する環境は、それぞれバージョンごとにプランを分けて運用してください。
※2 v6.0 Update3 から v6.0 Update2 および Update 1へのレプリケートをサポート

> リカバリスピードの大幅高速化

※Arcserve 調査結果

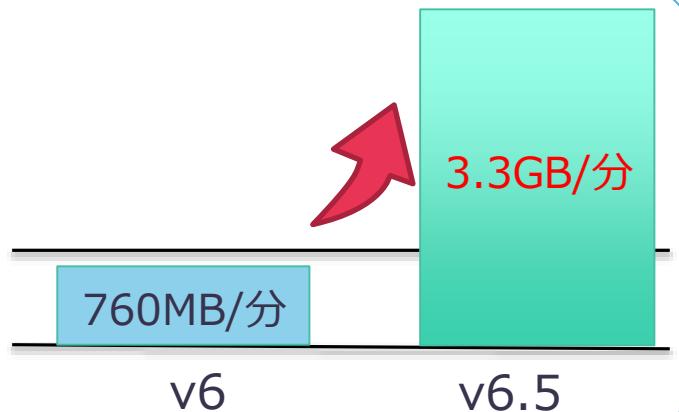
1. BMRによるサーバ復旧

スループット: **1.5倍以上!!** (*1)



2. ファイル単位のリカバリ ※2

スループット: **4倍以上!!** (*3)



*1 平均スループット GB/ 分 (復旧対象のデータ量: 197GB, 増分バックアップ: 15回)

*2 カタログ作成無効 (デフォルト設定)

*3 平均スループット GB/ 分 (リストアデータ量: 107GB, 約6万5千ファイル)

> その他の拡張機能

レポートおよびイベントログ機能の追加および拡張

- 各ジョブの成功/失敗/キャンセルなどの状況を表示できるレポートを追加
状況レポートを定期的に自動作成し、電子メールで送付可能
- 復旧ポイントのデータ分布の拡張
データ分布レポートに重複排除無しの復旧ポイントの項目を追加
- イベントログやアクティビティログの警告およびエラーメッセージにID追加
ID番号のクリックでログ画面からトラブルシュート情報へリンク

自動更新時の通信プロトコル選択機能の追加

更新ダウンロード時の通信プロトコルとして HTTP / HTTPS のいずれかを選択

UDP が利用するコンポーネントのアップグレード

- 製品同梱DBとして、SQL Server 2014 Express SP2 を採用

新規サポート対象の追加

- | | | |
|--------------------|----------|------------------------------|
| • SQL Server 2017 | • Debian | • Fujitsu Cloud K5 クラウドストレージ |
| • Data ONTAP 9.0以降 | • Ubuntu | |

> その他の新機能/拡張機能

HPE 3PAR および Nimble のハードウェア スナップショットとの連携

- HPE 3PAR を新規サポート
- Nimble と VMware 環境との組み合わせをサポート

重複排除データ ストアの拡張

バックアップ時のエージェントとRPS 間、またはレプリケート時のRPS 間の通信で、チェックサム検証メカニズムを導入し、ネットワーク転送によるデータ破損を回避

Amazon EC2 / Azure 上の Linux 仮想マシンのサポート

EC2 および Azure 上の Linux 仮想マシンのバックアップ、ファイルレベルリストアおよび、BMRをサポート

SMB 3.0 (SOFS) のサポート

SMB 3.0 上の Hyper-V ゲストOS のエージェントレス & 繼続増分バックアップをサポート

> その他の拡張機能



仮想スタンバイの機能拡張

- ・システム ボリュームだけからの仮想スタンバイ
システム起動に必要なディスク構成のスタンバイ用 VM 作成で、データ転送時間とストレージ容量を削減

インスタント VM の機能拡張

- ・失敗したインスタント VM ジョブの再開
(ウィザード実行無しでインスタント VM を作成)
- ・ステータス表示の改善
(VMware Tools / Hyper-V 統合サービス導入状況、VMファイルパス容量などカラムを追加)
- ・作成ディスクのコントローラ (IDE / SCSI) 指定
- ・VMware 環境での速度向上
(仮想ディスクの更新をデータストアにリダイレクト)

> お問い合わせはこちから



Arcserve ポータルサイト : arcserve.com/jp
カタログセンター (カタログ、技術資料)
<https://www.arcserve.com/jp/lpg/catalog-center.aspx>

Arcserve カタログセンター

検索



Arcserve ジャパン ダイレクト (購入前のお問い合わせ)



例：「この構成で必要なライセンスを教えてください」、「Arcserve UDP はXXXに対応していますか？」、「XXXはサポートされますか？」

フリーダイヤル : 0120-410-116

(平日 9:00~17:30 ※土曜・日曜・祝日・弊社定休日を除きます)

Webフォーム : <https://www.arcserve.com/jp/japandirect>